

平成20年4月16日（水）  
「犯罪からの子どもの安全」領域

第1回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウム  
～地域力の展開とサイバー社会への対応～  
まとめ

1. 開催趣旨

領域のネットワーク活動の一環として、領域の活動に留まらず、「犯罪からの子どもの安全」の問題について広く情報発信・交換する場として、「犯罪からの子どもの安全」シンポジウムを開催する。

第1回では、従来から地域で発生している犯罪からの子どもの安全と、近年急速に発展をとげている情報社会における犯罪からの子どもの安全、この2つをテーマに、取組や問題の具体的な事例を紹介する講演及びディスカッションを行う。また、シンポジウムのディスカッション内容を踏まえて、平成20年度の研究開発公募にどのようなテーマを領域として取り上げ、研究開発を進めたらよいか、メッセージを発信する。

2. 日時

平成20年2月28日（木）13:00～17:30

3. 場所

富士ソフトアキバプラザ5F アキバホール

4. 参加者

計94名（関係者を除く）

## 5. プログラム

### 13:00 ◆開会挨拶

片山 恒雄（東京電機大学未来科学部 教授）

### ◆「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域について

安藤 二香（社会技術研究開発センター アソシエイトフェロー）

### 13:15 ◆テーマ：地域力の展開

#### ◇春日井市における取組

コーディネーター：石附 弘（財団法人国際交通安全学会 専務理事）

講 演：渡邊 修子（春日井女性フォーラム実行委員会 委員長）

長谷川 保弘（春日井市総務部市民安全課 副主幹）

#### ◇寝屋川市における取組

コーディネーター：戸田 芳雄（国立淡路青少年交流の家 所長）

講 演：阪口 治（寝屋川市教育委員会社会教育部

地域教育振興室指導主事）

### 14:25 ◇パネルディスカッション・会場との意見交換

コーディネーター：杉井 清昌（セコム株式会社 執行役員）

パネリスト：石附 弘

阪口 治

戸田 芳雄

長谷川 保弘

渡邊 修子

### 15:15 ◆コーヒーブレイク

### 15:40 ◆テーマ：サイバー社会への対応

#### ◇インターネットと子どもの危険

講 演：大久保 貴世（財団法人インターネット協会 主任研究員）

#### ◇非行臨床の現場から

講 演：石橋 昭良（警視庁少年育成課 副参事）

### 16:20 ◇パネルディスカッション・会場との意見交換

コーディネーター：坂元 章（お茶の水女子大学大学院  
人間文化創成科学研究科 教授）

パネリスト：石橋 昭良

大久保 貴世

新谷 珠恵（社団法人東京都小学校PTA協議会 会長）

奈良 由美子（放送大学教養学部 准教授）

### 17:10 ◆次年度公募に向けてのメッセージ

片山 恒雄（東京電機大学未来科学部 教授）

### 17:25 ◆閉会挨拶

有本 建男（社会技術研究開発センター センター長）

### 17:30 ◆閉会

## 6. 概要

### 6-1. テーマ1「地域力の展開」

#### 【テーマ設定の背景】

従来から地域で発生している犯罪からの子どもの安全に向けて、各所で防犯活動がなされている一方で、防犯活動の継続性が課題として上がっている。そのような中、防犯だけに特化した地域では活動が長続きせず、地域全体の総合力を高める取組に結びつけるなど、地域づくりの一環



として防犯活動に取り組んでいる地域の方が長続きする現状が見えつつある。そこで、地域づくりに取り組む優れた2つの地域における取組を講演で紹介し、パネルディスカッションにおいて共通的な課題や研究開発が期待される課題等について議論を行う。

#### 【春日井市における取組】

- ・ 春日井市は、全国に先駆けて行政が安全なまちづくりに取り組んだ地域であり、平成5年に安全なまちづくり協議会が設立以降、取組を進めてきた。
- ・ 鶴飼前市長の思い・リーダーシップの基に行政の仕組みができた。
- ・ 春日井市の特徴は、安全なまちづくり協議会に専門部会があり、市役所のあらゆる部署が関係していることである。
- ・ 春日井女性フォーラム実行委員会は、国・市の呼びかけに応じて平成10年からボランティアとして活動を継続してきた。その理由は以下のとおり。
  - 住民が住んでいる地域について自ら考える活動である。
    - ◇ 前市長は結成を呼びかけたが、活動内容は自分たちで考えるように投げかけた。
  - 行政・警察・市民が三位一体で進めてきた。
  - 地域で長い時間過ごし、育児の中心を担う女性の視点を活かしている。
  - 世代を超えた取組を実施。

#### 【寝屋川市における取組】

- ・ 平成10年に中学生による凶悪事件が発生して以降、地域並びに家庭の教育力の向上を目指して、行政が主導して教育コミュニティづくりを推進してきた。
- ・ 府警や文部科学省の委嘱事業により、モデルとして選定した校区において1～2年間、地域で子どもの安全を守る取組を実施。
- ・ 大人から子どもまで、世代を超えた取組を実施。
- ・ 課題として、モデル校区以外の地区での取り組みを展開すること、また、立ち上げは上手くいった校区における取組の継続が上げられる。

#### 【パネルディスカッション】

- ・ 多様な取組がある中で、互いに情報共有を行うための仕組みや、活動を立ち上げる際にどうしたら上手くいくか等を提案できるような研究があるとよい。
  - ▶ 安全安心なまちづくりのための活動の立ち上げと継続の時期では、方法や人材といった活動に必要な要因が異なるのではないか。
  - ▶ 活動が上手く継続しているところを見ると、活動のための良い仕組みを持っている、情勢に合わせて活動を変化させている、地域住民が燃えていることが重要などの共通点が見受けられる。
- ・ 一見バラバラに見える取組を分類・分析することにより、重要な共通する要因を導き出せ、足りない視点や取組の提案等がなされる仕組みが構築されるとよい。
- ・ 人、金、モノ、体制、システム、情報等がどのように関わっているのかを抽出できる研究があるとよい。
- ・ 科学的な裏付けとして、地域の防犯力が高まっていく取組を検証していくことが大切。
- ・ 暗黙知・経験知をどのように形式知・科学知に変えていくのかが重要な課題である。
- ・ 現場では、自分たちの取組が有効なのか、どう検証したらよいかわからない。研究者に相談できるとよい。

#### 【会場からの主な質問：質問票より】

- ・ 春日井女性フォーラム実行委員会が10年間ボランティアを継続できた理由を具体的に教えて欲しい。
- ・ 寝屋川市で青少年の犯罪が相次いだ原因について教えて欲しい。
- ・ 下校後の子どもの安全確保について、優れた取組や保険負担の軽減など、良いアイデアはないか。
- ・ 取組の前後で、子どもの安全や地域力の向上、子どもの意識や行動の変化、費用対効果などの客観的なエビデンスや、それらを測定するための評価指標、評価方があるのか教えて欲しい。
- ・ 都市圏と地方など、地域差について教えて欲しい。
- ・ 防犯活動や地域づくりが成功せず収束した事例から、その原因となる事情への効果的な対策や回避する手法等の研究、マニュアル化が必要ではないか。
- ・ 優れた取組をする人々のネットワークを広げていくために何が必要か。情報共有のための仕組みはあるのか。

## 6-2. サイバー社会への対応

### 【テーマ設定の背景】

近年急速に発展をとげている情報社会において、犯罪からの子どもの安全の問題も急速に変化している。特に、インターネットや携帯電話などの新たな技術やサービスが子どもに広がる中、新たな問題が次々と発生しているにも関わらず、その状況が広く認識されていない現状がある。そこで、問題に取り組む二人の講演者から、具体的な問題事例を紹介し、パネルディスカッションにおいて、取り組むべき研究開発課題や、どのような討論が今後必要かを議論する。



### 【講演】

- ・ 「インターネットと子どもの危険」では、(財)インターネット協会で、インターネットに関する相談や、ルールとマナーに関する講座の開催などを実施する中から見えてきた現状について、プロフ、出会い系サイト、携帯電話向け SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）等における具体的な問題事例について、実際のサイト画像や投稿内容を提示しながら紹介。
- ・ 「非行臨床の現場から」では、警視庁少年育成課にて臨床心理士として子どもに向き合ってきた経験から、少年をめぐる社会状況の変化、インターネット及び携帯電話の普及と少年への影響等について、統計データを交えて紹介。

### 【パネルディスカッション】

- ・ インターネットを介した犯罪につながる問題として、性犯罪、誹謗中傷・いじめ、個人情報流出、詐欺などがある。対策としては、フィルタリング、情報モラル教育、ホットラインの設置、通報、規制（法的・業界による自主規制）などが挙げられる。
- ・ 問題解決に向けて、今後、どのような議論や研究開発が必要か。
  - 20年ほど青少年とインターネットの影響に関する研究が進められ、青少年の人格への影響（良い面、悪い面双方）に関する研究などがなされてきた知見を踏まえ、インターネット依存の青少年が増えていること、それらの青少年が抱える問題をどのように解決するのか、どのようなアプローチで研究が可能かも含めて検討が必要ではないか。
  - インターネットスキルを向上させるためにも、青少年のソーシャルスキルを向上させるためのプログラム開発が必要ではないか。
  - インターネットを介して様々な問題が発生する一方、ネット上のコミュニティが子どもの抱える問題を改善すること事例もあり、そのような事例に関する研究も必要ではないか。
  - 違法・有害情報が子どもに与える影響や心の傷、対人関係など、脳科学、心理学、社会病理学など、科学的な知見に基づくデータを創出して欲しい。

- サイバー空間における問題についてもリアル空間と同様、防犯の限界を認識し、犯罪管理（犯罪からの安全の合理的・最適な達成）の実践事例の評価・分析を行う研究が必要ではないか。
- 情報モラル教育、フィルタリング、ネット内見守りシステムとリーダー育成などに関する研究開発や、問題や対策の情報共有システム構築、人的ネットワーキングが必要ではないか。
- 市民参加を促し、市民と研究者が協働するための仕組みとして、防犯版サイエンスショップの構築がなされると良い。
- ・ 携帯電話のフィルタリング原則義務化について。フィルタリングが問題の解決になるのか、ならなければどうしたらよいか。
  - 原則義務化になったとしても、子どもが親に頼み込んで外してしまうケースが多い。フィルタリングだけで問題解決できるわけではないが、インターネット上での振舞いに責任が持てるようになるまではフィルタリングをかけるべき。初めて子どもに携帯電話を持たせる場合にはフィルタリングをかけ、その状況が当然であるとして使用させるべきではないか。
  - パソコンのフィルタリングのように、携帯電話においても子どもの実情に即して細かく設定可能なフィルタリングを開発して欲しい。
  - フィルタリングをかけた場合、かけていない場合の子どもへの影響について研究がなされると良いが、研究のデザインの難しさも感じる。
  - ゾーニングの考え方を導入すべきではないか。

**【会場からの主な質問：質問票より】**

- ・ フィルタリングの効果や法制度の状況、子どもにとってのプラス面・マイナス面について教えて欲しい。
- ・ 登壇者自身の防止策を教えて欲しい。
- ・ 子ども（特に小学生以下）のインターネットや携帯電話利用については制約を設けるべきではないか。
- ・ 欧米の状況について教えて欲しい。
- ・ 状況把握のためにも、大人への情報提供が必要ではないか。
- ・ インターネット使用と個人の意識変化について教えて欲しい。
- ・ プライバシーの考え方に関する現状はどうなっているのか。
- ・ 違法・有害サイトを機械的に発見する方法の研究はあるか。
- ・ インターネットや携帯電話が普及していく中で、子どもたちに何をしていけば良いのか教えて欲しい。

### 6-3. 次年度公募に向けてのメッセージ

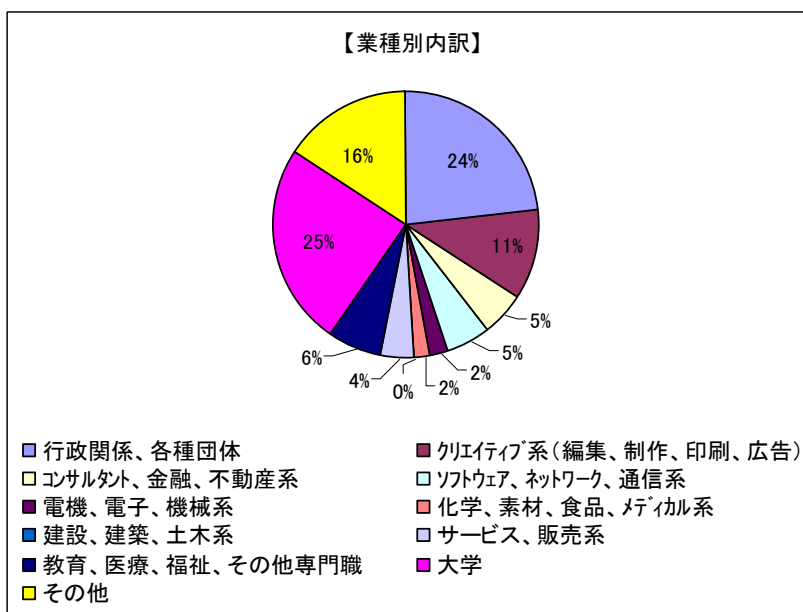
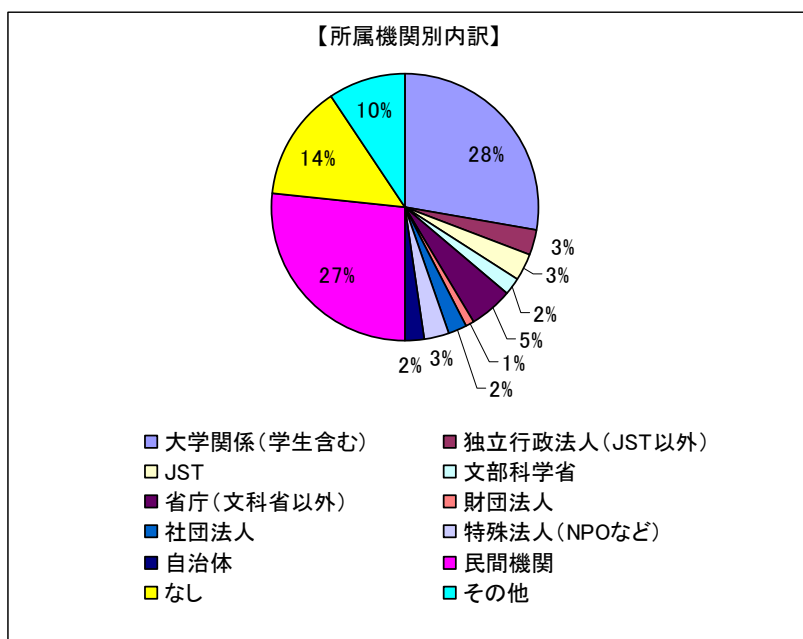
社会技術研究開発事業の方針、平成19年度採択課題のマッピング、研究開発プログラムの実施期間・規模、領域として公募に当たり期待したいことを発信。

領域として期待したいこととして、①本シンポジウムの議論を踏まえた提案、②平成19年度採択時の総評の中で検討事項とした点などを提示した。



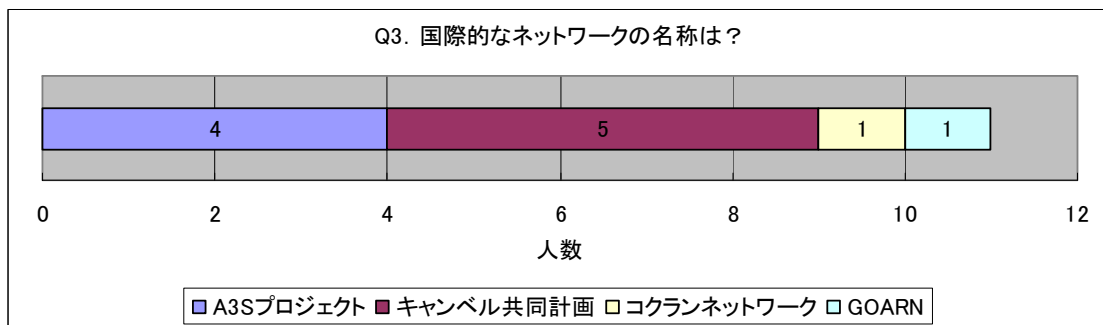
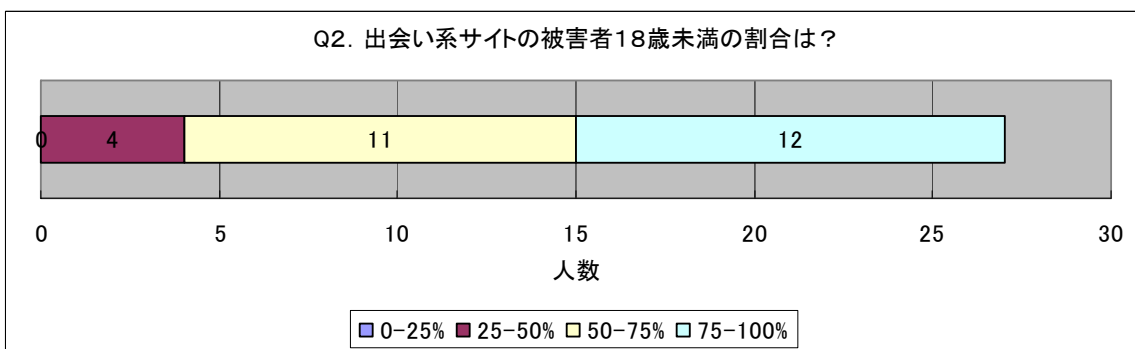
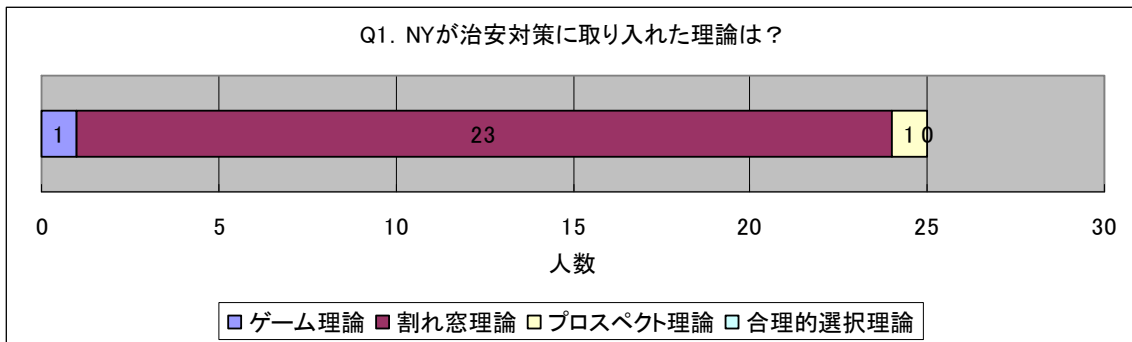
### 7. 参加者の集計結果

【参加者の男女別内訳】 男：69、女：25

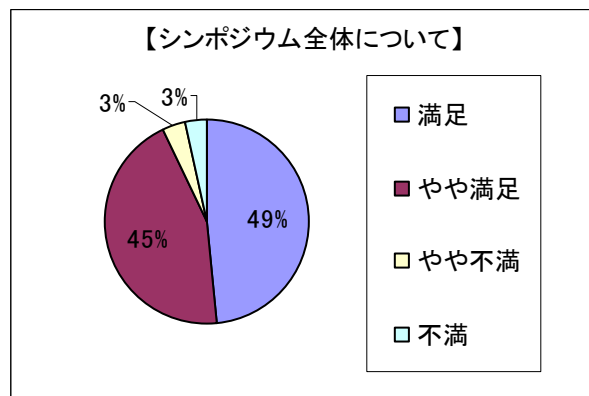


8. アンケート集計結果（回収率 40.4%）

8-1. 「犯罪からの子どもの安全」クイズ

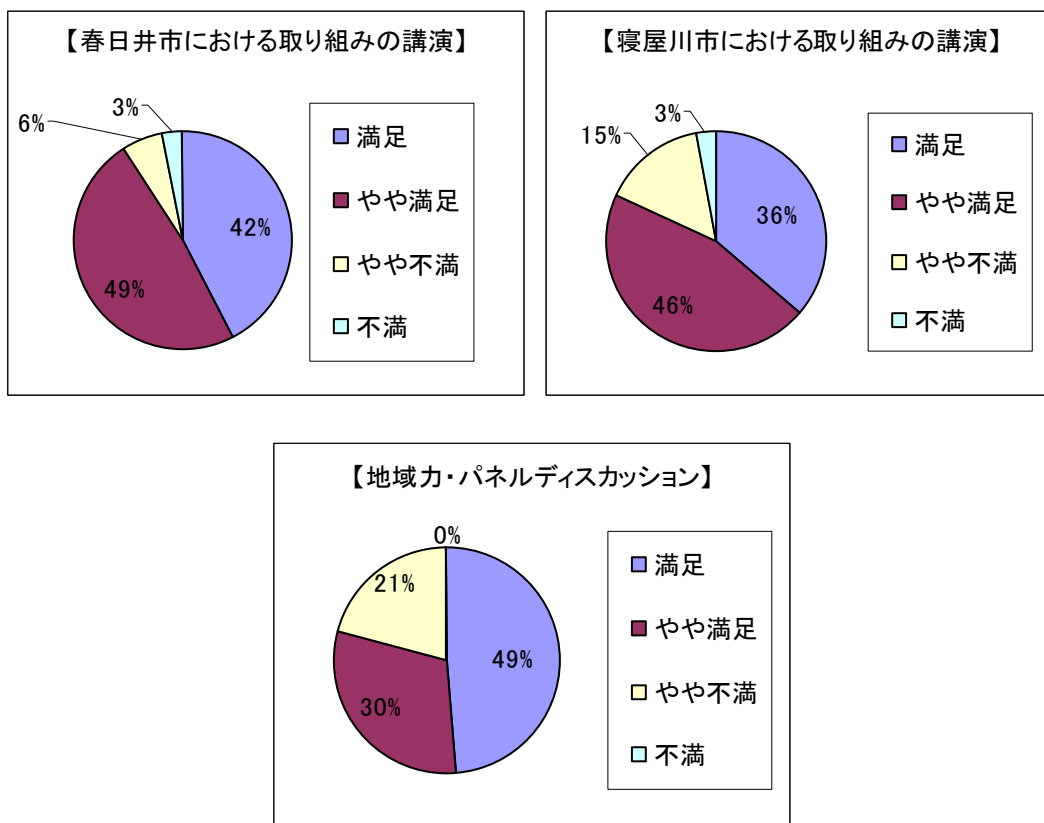


8-2. シンポジウム全体について

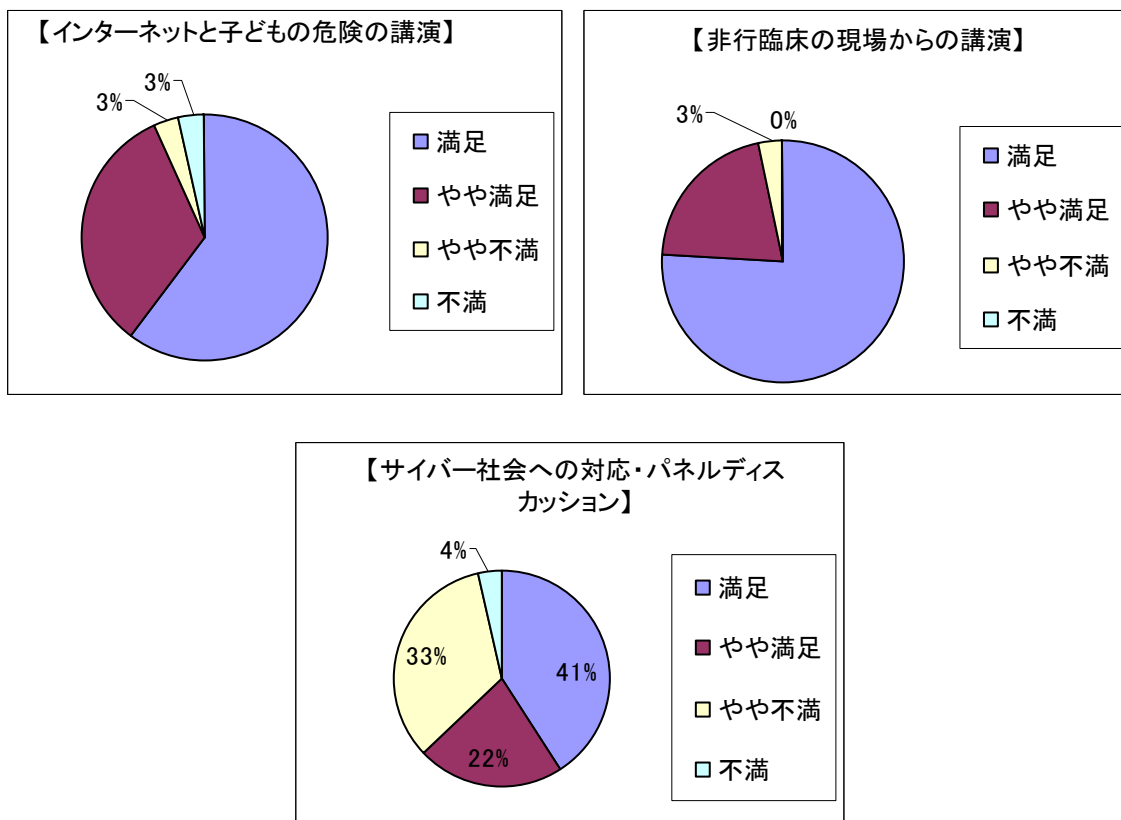




8-3. 「地域力の展開」について



8-4. 「サイバー社会への対応」



## 8-5. 主なご意見・ご感想

### 【地域力の展開について】

- ・ 春日井市と寝屋川市のとり組みは、子どもを犯罪から守る地域での活動として大変参考になった。
- ・ 子どもの視点からの話があると良い。
- ・ 行政として、地域力をいかに生み出すかということは、大変難しい課題だが、本日のシンポジウムなどを参考に考え方を整理していきたい。

### 【サイバー社会への対応】

- ・ 効率的に違法・有害なサイト発見する技術を開発して欲しい。
- ・ もう少しパネルディスカッションに時間をとって欲しかった。
- ・ 大人がネットをより詳細に使いこなすために勉強しなくてはいけないと思う。
- ・ 技術の進歩に、それを使う人間の管理能力がついていけない状況になっている。人間の価値観（価値判断力）を向上させるのが大切だと感じた。
- ・ 携帯コンテンツ会社の人間、技術者、教育者、行政などの人を集めて活発な議論がなされるパネルディスカッションを見てみたい。

### 【その他】

- ・ 教育現場からの意見を取り上げるべきで、フロアーからの意見も取込んで欲しい。
- ・ 町内会・自治会関係者の参加が多くあればと思う（多く参加させた方がよい）。
- ・ 興味のある内容が多かったので、もう少し時間を分けてほしかった。テーマは一つの方が良いのではないか。

以上